

## 豊富な工作機械で 顧客の求めるものづくりへ

- 納期相談
- コスト相談
- メイドインジャパン
- 試作可 小ロット
- 量産対応



機械の使用状況を画面で把握できる

### 【業務内容】 エンプラ素材で 多分野の加工品を提供

「ヤマトウ」は、合成樹脂の切削加工に強みを持つエンジニアリングプラスチック（エンプラ）部品製造会社。主要な取引業界は食品、半導体、アミューズメント、機械など多岐にわたり、各分野で同社のエンプラ部品は活躍している。長年、積み上げてきた信頼関係から仕事は、取引先や仲間の中小企業からの紹介が多く、創業からの取引先は現在200社を超える。

設備投資にも積極的で、平成28年11月には大阪府門真市内におよそ3億5,000万円かけて新工場を建設し稼働した。年々、受注を着実に増やし、順調に業容を拡大している。

### 【強み】 40台の機械による 幅広い加工が可能

マシンニングセンター（MC）17台、複合加工機7台など40台以上の機械と、検査機などの周辺機器をとりそろえ、対応できる製品の幅が広いのが強みだ。現在は、ジェットコースターの部品から、航空機のオイルフィルター部品、2mを超える大型部品など、顧客の求める製品を手がけているほか、試作品から量産品まで対応している。

「機械があれば仕事が来る」というのが当麻吉克社長の考えで、平成20年のリーマンショック時でも3,000万円の設備投資をしたほど。最近も大型MCを導入するなど最新装置への投資は惜しまない。

### 【生産体制】 生産管理システム導入で “工場見える化”

新工場が完成するまでは、6拠点に分かれた工場の稼働状況を確認するのが難し

かった。そこで、工場内の機械の稼働状況が一目でわかる「工場集中管理システム」を平成27年に導入し、工場内の各機械をネットワークでつないだ。

おかげで工場間の割り振りが以前よりスムーズになり、1工場に仕事が集中するのを減らし、機械の稼働状況を的確に把握できるようになり短納期の仕事が以前より15%増加した。また、機械の異常が早期に見つけられることで、製品の品質が安定し、不良率が減少し、製造コストが10%も低減した。

### 【後の展望】 大型製品強化と 人材育成で売り上げアップ

これから力を入れるのはインフラ向けの大型製品だ。平成23年の東日本大震災以降、水道管を従来の土管から、揺れや腐食に強いプラスチック管にする動きが加速している。同社でもこの流れに対応するため、新工場が稼働したのを機に今後、新しく導入した大型MCを駆使しながら、この分野の仕事を増やしていく。

その際に社員のスキルアップも不可欠と考え、従来から継続している大手メーカーの研修に、社員をより積極的に参加させ技術の習得を促す。これらの取り組みで、平成38年までに当麻社長の夢である売上高10億円を目指していく。



加工したエンプラ製品



工場内に並ぶ機械

## 当社の歴史



昭和63年の創業からエンジニアリングプラスチックの加工を手がけています。およそ40台の工作機械を一元管理する工場管理システムの導入や、6拠点に分散していた工場を3拠点に集約したことで生産効率が向上しました。これからも顧客のニーズに応えるものづくりを目指します。

代表取締役 **当麻 吉克さん**

<http://yamatou.co.jp/>

### 主な事業内容

合成樹脂の切削加工販売

### 主な取引先(納入先)

食品メーカー、半導体機械メーカー

- 住所 〒571-0038 門真市 柳田町30-1
- TEL 072-882-9331
- FAX 072-882-9325
- 創業 昭和62年10月
- 設立 昭和55年10月
- 資本金 1,000万円
- 従業員 31名